



まごころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011~2012年度
国際ロータリーのテーマ
まごころの中を見つめよう
博愛を広げるために
2011~2012年度
RI会長 カルヤン・ハネルジー

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創会 立 1980年(昭和55年)1月10日
幹事 長 高須 洋志
事 長 馬場 将嘉
クラブ広報委員長 関谷 俊征
例会 日 毎週木曜日 PM12:30~
場 ヒルトン名古屋

事務局 460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
TEL: 052-211-3803
FAX: 052-211-2623
MAIL: 2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL: http://www.mizuho-rc.jp/

第1553回例会

2012年6月7日(木) 曇 第43回

~ロータリー親睦活動月間~
クラブテーマ:「熱田の杜・友愛・気品」

司 会 : 亀井直人会場委員長
斉 唱 : 「君が代」「奉仕の理想」
ゲ ス ト : (公財)地球環境戦略研究機関
国際生態学センター長
横浜国立大学名誉教授
宮脇昭さん
ビ ジ タ ー : 渡辺英信さん(名古屋東RC)

会長挨拶

高須洋志会長

昨年春の岡崎のRYLAセミナーで初めて宮脇先生の講演を聴く機会がありました。日本本来の植生に合った森づくりこそが人間のいのちを守るものだというお話でした。大変感銘を受け、機会があれば是非皆さんにも聴いて頂きたいと思っていました。そして今年4月頃、株式会社三五が宮脇先生をお招きし、田原市で植樹祭と講演を開催しました。宮脇先生は東日本大震災後のがれきを廃棄物として処理するのではなく、資源として生かし、東北の海岸線に300kmにわたる防潮堤を作る提言をされています。戦後の日本は森を伐採し続け、木がなくなった場所に杉や檜を植えた単植林を増やしてきましたが、杉や檜は根が浅く、保水力が小さいという弊害が起きました。その土地本来の植物を守ることの大切さが分かってきています。今日は宮脇先生をお招きし、森とはどうあるべきなのかという点をお話を聴いて頂きたいです。私個人としては社会奉仕の事業として、木を植えることを考えています。しかしこれは理事会決定事項ではありませんので、本日の卓話を聴いて頂いた上で具体的なイメージを作り上げ、どのように日本の森づくりに参加していくかを考えて頂けたら良いと思います。



小学校の頃に『小学校唱歌』というのがあり、同世代の方は歌われたと思います。『お山の杉の子』の歌詞は「むかしむかしその昔 椎の木林のすぐそばに 小さなお山があったとき」で始まり、最後は「大きくなって 国のため お役に立って みせします」という結びになっています。国の政策を支援するような歌を小学生が口を揃えて歌っていたのです。この国の政策は現在単植林の欠陥が露わになり、誤りは正していかななくてはならないと感じています。今日は長めに卓話の時間を取らせて頂きました。宮脇先生のお話を聴いて頂き、できれば皆で社会奉仕活動として森づくりに参加できたら良いと思っています。

委員会・同好会報告

親睦活動委員会(国内友好担当):堀慎治さん

6月16日(土)に札幌手稲RCの例会に高須会長、松波会長エレクトははじめ12名の方々と訪問します。

ニコボックス

長瀬憲八郎ニコボックス副委員長

- ・6月26日は誕生日です。 長坂 邦雄さん
- ・6月11日は誕生日です。ホームページから理事会に入っても、記載が少なすぎて全く分かりません。次年度は一般会員が判るようにお願いします。 遠山 堯郎さん
- ・6月27日は私共の結婚記念日です。 岩田 吉廣さん
- ・6月14日は結婚記念日です。 高木 勝さん
- ・宮脇昭先生、遠方までお越し頂き有難う存じます。先生の講演を会員一同心待ちにしておりました。本日は宜しくお願ひします。 高須 洋志さん
- ・宮脇先生の卓話が楽しみです。 宗宮 信賢さん
- ・先週土曜日、高須会長、松波会長エレクトと共に茅ヶ崎湘南RCの35周年記念式典と懇親パーティーに出席して参りました。台北延平RCの仲間にもお逢いでき有意義な一夜でした。 野崎 洋二さん
- ・先日、高須会長と野崎さんと私で茅ヶ崎湘南RC35周年記念式典に行つて参りました。台北延平RCの方々とも良いお話ができました。 松波 恒彦さん
- ・先日のゴルフ部会の例会で泉さんに大変ご迷惑をお掛けしました。中部ゴルフ会で一躍有名になるところでした。以後気を付けます。お許し下さい。 関谷 俊征さん
- ・内田先輩、先日のゴルフ部会では大変お世話になり、ありがとうございました。 湯澤 勇生さん
- ・先日、熱田まつりがありました。子供が大変喜んでいました。 鈴木 淑久さん
- ・今日は遅れて申し訳ありませんでした。税務署の方々と話が弾んでしまいました。 堀 慎治さん

6月誕生日おめでとう

平野哲始郎さん 嶺木 一夫さん 鈴木 健司さん
遠山 堯郎さん 松波 恒彦さん 湯澤 勇生さん
長坂 邦雄さん

出席報告

長瀬憲八郎出席副委員長

会員67名 出席44名 (出席計算人数51名)

出席率 78.6% 5月31日は補填により 88.3%

幹事報告

馬場将嘉幹事

- ・本日14:20よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第12回理事会を行います。
- ・次週6月14日(木)はなごやか例会です。
- ・6月14日(木)に国内友好RCの札幌手稲RCを訪問します。当クラブより12名出席予定です。

明日の豊かな生活を守るいのちの森づくり
～名古屋から世界へ～

「今を生きているとはどういうことなのか?」「何が幸福なのか?」「何が生き甲斐なのか?」といった基本的な課題について、限られた時間ではありますが皆様とご一緒に考えさせていただく機会を与えていただき、ありがとうございます。

地球に人類が生まれて500万年、生命が生まれて40億年が経ちます。その長い時間

のプロセスを経て、現代の私達はかつて我々の先祖達が夢にも見なかったほどの物とエネルギーを手に入れ、多くの情報に惑わされて右往左往しています。全ての科学技術は最高で、邪魔者は皆殺しにし、自分の党派・派閥・集団だけがより良い生活をし、傲慢に振る舞っています。そして昨年3月11日に40億年続くDNAを支えてきた2万人の一番大事な命が失われました。私達にとって幸福とは『今生きていること』、生き甲斐とは『今すぐどこでも、誰にでも足下からできることを前に進めること』だと私は確信するようになりました。私は震災の時、インドネシア政府に頼まれ、最古の人類と言われるジャワ原人がいたジャワ島の破壊された熱帯雨林の森を調査していました。調査後に宿に帰るとテレビで大津波の中、車や家が流されるのを見て、それが日本だと分かり大変驚きました。帰国してすぐに現地に向かい、実際の様子を見ました。釜石市では最高の科学技術で予測した津波の高さに合わせ、ギネスブックに載るような水深63mの防波堤を作っていましたが、900人近い方が亡くなりました。木を植えるのは木材生産やセメント都市を緑で飾るためだけではなく、そこで生まれ育ち、学び、働く全ての人、あなたやあなたの愛する人などの人類と、人類と共生している生態系や最低限循環できるエコシステムが互いに競争しながら、少し我慢して共生する多様な生物社会を維持するためです。先見の明を持ち、社会の大きな役割を背負っているロータリアンの皆様、どうぞあなたや愛する家族の命を守るために足下からできることを行って下さい。自分は大丈夫だと皆思っています。亡くなった者を生き返らせることは絶対にできません。昨年は東北でしたが、次に地震が来るのは私の住む横浜を含む首都圏や南海、東海地方かもしれないのです。何があっても生き延びられるような施策が必要です。そして私達は経済なしでは生きていけないので、減少的な引き算ではなく、生き延びるための足し算をしていきたいです。原子力発電所の問題でも止めれば良いのは当たり前ですが、人類の歴史を見ても、1度握った果実は絶対に放棄しません。私達が反対しても、今更不便な生活は嫌だと戻ってしまうのです。津波では高台に上がれば良いと言いますが、人類文明の歴史を見てもメソポタミア・エジプト・ギリシャ・ローマ、現代ではロンドン・ニューヨーク、そして山の多い日本の都市では名古屋・東京・大阪など、全て海岸沿いにあります。海岸沿いが一番エコロジカルで住みやすいため、高台に移り住んでも、何十年か経てば人は海岸沿いに住み始めていくのです。

私達はこれから50年、100年、1,000年、そして次の氷河期が来る9,000年後まではこの限られた地球で生き延びなければなりません。大震災では大津波後に残された物ががれきだけでした。がれきは邪魔者だから燃やせばいいと、皆さんの税金を使って全国で処分させようとしています。このがれきの木質資源(約90%がかつての家屋や家具の木材)の50%は炭素でできているため、燃やせば炭酸ガスを排出するので、今まで温暖化で大騒ぎしていた環境省は勧めることができません。毒は排除しなければなりません、使える物は使うべきです。燃やしたり捨てたりせず、土と混ぜて『いのちの森』を作ることを提案します。「メタンガスの発生や発酵して火が付き、火事になったらどうするんだ」「分解が

進み、穴が開き、子供が落ちて怪我をするのではないか」という意見もあります。しかし国交省で計算すると、南北300km、幅100m、深さ25mの穴にがれきを埋めても、わずか4.8%にしかなりません。この9,000年、地球上の気温はそれ程大きくは変わっていません。40億年間、命の大部分は水の中で生活してきました。4億年前、海の水が引いた時に初めて陸上へと這い上がり、それが植物と動物の2つの幹となり、ゆっくりと進化し、植物の藻類、苔類が生まれ、3億年前にはシダ植物の原生林ができました。そして次の氷河期にそれが地中に埋まって作られた石炭・石油・ガスを掘り出して使い始めたのは190年程前です。シダ植物の次にソテツ・イチヨウなどの裸子植物が生まれました。関東以西では海岸から海拔800mまでは冬でも緑の葉をつける椎の木・樫の木などの広緑樹が多く生え、自然の中で松は広緑樹に押され気味です。人間が火を使うようになり、森が焼き払われることもありますが、500年も放っておけば、また森になります。

1,000～2,000年前に海岸線に松や杉を植えたので、松は日本文化の原点のように言われています。松が流された後、土地本来の自然環境を支えるのは常緑広緑樹です。南三陸町の防潮堤は全て駄目になってしまいましたが、地中6～7mまで根を張るタブノキの森の破碎効果によって10mの波を5mにまで抑えました。本物とは厳しい環境に耐え、長持ちするものです。福島県会津若松市大戸町の中学校でも周囲は被害を受けていましたが、本物のタブノキは残っていました。今から40年前、酒田市で大火事によって千年杉が燃えた時にもタブノキは焼けることなく、そこで火が止まりました。酒田市長は私達の調査結果を踏まえ、「タブノキ1本、消防車一台」を掛け声にタブノキを植樹したのです。今から10年程前に仙台市の南にある高城で幅2m程のマウンドに椎の木やタブノキのポット苗を植えましたが、その木も震災後残っていました。好きなものを植えるのではなく、松が植えたいのならそれを支える木も一緒に植えなければなりません。地球支援や国民運動として、がれきに1本300円のポット苗を植えれば、10～20年後には津波を抑えることができ、今回のように引き波で1万人もの方が海に流されなくて済むはずで、大きな木を植える必要はなく、大きく成長する木を植えれば良いのです。新日鉄製鐵所でも偽物の木は植えないようにしているそうです。北上中学校では校長先生が中心となり、幅2m深さ1mの穴にがれきを土と混ぜて入れ、亡くなった方を弔う意味で皆で植樹しました。家族を亡くした少女が笑っていたので「無理に笑わなくていいよ」と先生が声を掛けていました。木を植えることは明日を植えること、命を植えることであり、それによって心に木を植えることなのです。

愛知県でも私のノウハウを知った当時の港湾建設局長が先頭になり、1980年頃からタブノキを11万本植えました。もし津波が来て、引き波で人が流されたとしても、掴まることができるでしょう。千葉県でも30mのマウンドを築きました。こうした森は復興記念公園や世界遺産となり、多くの方が学びや癒やしに来て、地元の観光資源となります。そして大きくなった木を木材として販売することで地域経済と共生する森づくりを行って頂きたいです。1949年、和歌山県で津波によって1,800名の方が亡くなりました。そこにNPOの皆様と共に苗を植えました。横浜市では海岸沿いに下水処理場を作ることを住民に反対され、担当者から相談を受けました。そこで建設現場の周りに幅5m、深さ1mの穴を掘らせ、ポット苗を植えました。後は自然に任せれば、10年で9mになります。枝が邪魔になった時に横枝は切っても、上の部分は剪定しません。規格品を作ろうとして手を入れることは死んだ材料を作ることです。個々の多様性こそが最も強い生命の原点なのです。また徳島知事が地方事務所を通して呼びかけ、4,500人で海岸沿いに4万5千本の徳島名産の徳島杉を植えました。徳島杉は5年で4～5mに育ち、海水に浸かり、高潮が何度も来ても倒れません。このように地域に合った本物の森を作って貰いたいです。ディズニーランドのある浦安市では液化現象で多くの水が上がってきました。そこで昨年12月18日、高洲海浜公園にマウンドを作り、全国から集まったボランティアの皆様でタブ、カシ、

シイなどの常緑広葉樹のポット苗を植えました。仕方なしに来た人でも木を植えると、帰る時には皆主役になります。私は国内外1,700カ所以上で植樹をしていますが、何度行っても初舞台です。今から20数年前、横浜市のゴルフ場跡地の管理を頼まれました。傾斜が30度ある、芝生が枯れたり、煙草で燃えたりしている場所にまずは土留めをし、その上に土を被せ、タブノキなどを植えました。現在そこは360万人の横浜市民にとって、万が一の時の避難場所となりました。

皆さんは公園の芝生にこだわりますが、芝生は『荒れ野景観』です。1958年頃、初めて日本の生態学者がロシアに招かれ、ヨーロッパを周りました。「森の下にはもう一つ森がある」というのはドイツの考え方です。肉食を主とする彼ら是有史以前から家畜を飼い、下の森の草を食べさせていたので、荒れ野景観になりました。公園の景観も荒れ野景観なのです。ニューヨークに作られたセントラルパークは命を守り、都市や産業域に作られた公園です。

愛知県一宮市の小さなお寺の鎮守の森は嬉しい時も悲しい時も、祭や用いを行ってきた場所です。常緑樹のタブノキ・椎の木・榎の木が生えるこの森は台風が来てもびくともせず、火事が起きた時には一時的に火を食い止めてくれます。私達日本人は町ごとに必ず鎮守の森を作ってきました。そこに神様がいらっしゃることは分からなくても、命を守る森であることは知っていたのです。上越地震が起きた場合、森がなければ、福井県・若狭湾沿いでは火事や福井の季節風によって大きな被害を受けるでしょう。そうならないために塩水、潮風、大雪、津波にも耐える土地本来の木を残してきたのです。そして愚かな人達が森を破壊しないように神社や寺を建てました。愛知県から静岡県に掛けて新幹線に乗っている時に見つけた緑のある場所の中を調査すると、お地藏さんや社がありました。これが日本の古来のイメージでしたが、今ある緑のほとんどが偽物です。関東以西の海拔800mまでの場所に1億2千万人(人口の92.8%)がアスファルトの世界に住んでいます。いのちの森は0.06%しか残っておらず、その他は人間に植えられたものです。落ち葉が落ち、日陰になっても我慢し、鎮守の森を守ってきた事が日本の叡智でした。水際にセメントを2重、3重に張り、死んだ樹木で建てた家に生まれ、セメントでできた学校で学び、石油と化学製品でできた工場で働いている人が人間としての豊かな感性を守れるのでしょうか。死んだ材料と廃材の中でいつまで生き残れるのでしょうか。会社や行政、各団体は大きくなる偽物の木を植えるのに多くのお金を使っています。今こそ、大きくなる力をもつタブノキを植えなければならないのです。

最高の技術によってできた都市や産業と本物のいのちの森が共生する哲学を知って頂きたいです。中部電力・浜岡原子力発電所の海岸線側は鉄筋で固められていますが、裏の斜面には立派な森ができています。福島では津波の水で被害が出てしまいましたが、防潮堤の後ろにある幅20mの森は地震や台風には耐えているのです。裏だけでなく、周りを森で囲んでいけば、波の破碎効果があり、世界を脅かすような被害を出さずに済んだはずですが。

森づくりを行う場合、必ず現場を見て、本物と偽物を見分ける本来の動物的勘を蘇らせ、鎮守の森など自然が発するかすかな情報を読み取り、現場ごとに診断します。そして生き物は厳しい環境でこそ本性を発揮します。厳しさに耐えたものこそ本物なのです。椎や榎の木の常緑の森を、火を使うようになった2~3千年前に焼き払って田畑にしてみました。そのため常緑広葉樹の勢力が衰え、標高の高い場所へ移りました。落葉広葉樹の栗・コナラなどと共に里山の雑木林を残すためには、2年に一度誰が下草取りをするか、20年に1度誰が伐採するのかといった制約が必要です。トップがしっかりしていなくても、下がしっかりしていれば当分は保つというのが、人間社会を含めた生物社会の原理です。今は化石燃料があるため木を切らなくなり、高くなった木は刈り取られてしまいます。土地に厚化粧することなく、その土地本来の『潜在自然植生』のタブノキや椎の木やそれを支える藪椿など、素肌の本物の森を作ります。千葉県で植えたタブノキが頭から枯れてきてると言われ、見ると根が枯れていました。5万円で5mの

木を買ってきて、5年間で上から枯れて3mになるかもしれませんが。それならば1苗300円のポット苗を買い、植えた方が良いでしょう。植物にとって根は命です。タブノキは深根性、直根性なのでびくともしません。本田技研では敷地内に幅1mの穴を掘り、がれきを入れてマウンドを作り、そこに土地本来のタブノキ・椎の木・榎の木を植えました。10年前には奈良県・柏原バイパスでは子供達と共に植樹しました。

1994年1月17日、私はボルネオの熱帯雨林に調査に行っていた時、阪神大震災をテレビ速報で知り、日本に帰りましたが、なかなか現地に入れませんでした。関西国際空港からヘリコプターで液化現象が起きた現場へ行くと、最高の技術と金属でできた鉄骨やセメントの建物は全て駄目になっていました。ところが1列植えてあった土地本来の榎の木は、葉を焼かれながらも生きていました。調査の時、家族の骨を捜す人や、誰かを亡くして、拜んでいる人もいました。今晚襲うかもしれないこうした災害によって、様々なものを失わなければならないのです。何百億円かけ、最高の技術で造った新幹線も高速道路も同じような状態でした。しかし現地調査した結果、鎮守の森では社や鳥居は倒れていましたが、木々は1本も枯れていませんでした。神戸から西に40kmの地にある新日本製鉄の広畑製鉄所では、昭和48年に幅3m、5kmのがれきを入れたマウンドを作り、当時はポット苗がなかったので、ドングリを植えました。あの不幸な地震が姫路まで襲った時、これが境界環境保全林となり、何千人もの命を守りました。神戸市内では直下型地震によって6,000人もの方が亡くなりました。落ち葉が落ちて、日陰を作っても、家の側に榎の木があれば、家が倒壊した時にも枝に屋根が引っかかり、隙間ができて逃げ出すことができたのです。今ではようやく小学校の校庭の周りに常緑樹を植え始めています。地震が起きる10年前、大きい橋の下に30cmのポット苗を植えていれば、橋が倒れても森の上へ軟着陸するので、上のドライバーは命を落とさずに済んだのです。我々は橋も道路も都市も作らなければいけないと同時に、人間の命の共生者としての生きた緑をどう使うかが勝負であります。

国会図書館で関東大震災について、当時の土木学会誌を調べました。板塀で囲まれた陸軍被服廠には4万人がおり、わずか30分で3万8,000人が亡くなりました。しかし、そこからわずか2km東にある今の清澄公園には2万人ほどいましたが、たった2~3mの緑の壁に逃げ込んだ人は誰も亡くならなかったのです。こうした記録があるにも関わらず、行政はなかなか行動してくれません。

45度の急斜面のため、不可能と言われた広島県・美鈴が丘の工事は現場の人に反対されて、なかなか参加することができませんでした。そこで当時まだ御生存だった江戸三井不動産会長に参加できるようお願いしに日本橋に行きました。研究者は厳しい研究を行って初めて国際的に発表することができ、それこそが世界の『宮脇方式』と呼ばれるものです。現在14年経ち、林内には高木で緑の壁ができ、深根性・直根性・多層群落の広葉樹によって、音や臭いを防ぎ、津波にもびくともしません。そして木が大きくなったら死んでしまう前に木材として売る事で地域経済に協力し、乾燥重量の50%が炭素である木を燃やさないことで地球温暖化防止に協力できるのです。

北海道では坂本JR北海道社長のもと、皆でミズナラのドングリを集め、ポット苗を育て、この苗を植えるため、全国から沢山の方が参加されます。JRの方が育てても、90%くらいはちゃんと育ちます。その中に笑うことも話すこともできない小学校5年生の女の子がいました。先生や親御さんは植えることができなくても、見せてあげたいと連れてきたそうです。植えるのは無理だと言われましたが、私がこの子に植えてもらうと初めて笑ってくれました。木を植えることは正に命を植えることであり、心に木を植えることであり、そして明日に木を植えることだと知って頂きたいです。

広島県・呉の国有林の杉の木が台風で全て駄目になりました。その倒木を焼いたり捨てたりせず、全てを土に埋めました。そして森林管理局の人と共に広葉樹を植えました。行政の担当者が変わるとすぐにやり方を変えてしまいますが、命を繋ぐため変えない

ように言っております。種は7月に落ちるので、拾っていただき、これをRCの皆様の未来に残す、今すぐどこでもできることとしてポット苗を作って頂くと良いと思います。南北300kmに森づくりをするには9,000万本の苗が必要となります。土地本来の本物の木であれば、誰が行ってもちゃんと育ちます。

私達は1970年代から東南アジアの原生林を調査しています。原生林の森に近いものがある限り、熱帯雨林はびくともしません。生物社会のトップは全体の中で絶対に生き延びます。しかし人間が原生林の中に林道を1本作るだけで、一雨降ると大変な事になります。人間は地球の生物社会の進化の最後に出てきて、一番威張っています。木を植えることは、一番威張っているあなたやあなたの愛する家族が生き延びるために必要なのです。そのためには偽物の木を除き、40種類ほどの土地本来の本物の木が植えられると良いです。会社や団体でも三役、五役になる方は本物です。今までは1種類しか植えてこなかったため、駄目になってしまいました。本物とは厳しい環境に出ても長もちするものです。三井物産の支援の元、マレーシア農科大学との共同研究を20年以上行っています。植物の種は根が出てから双葉が出るので、根が非常に重要です。研究によって、どこでもポット苗を作ることができるようになりました。1990年7月に森林伐採後、切った木を焼かずに土と混ぜ、土地本来の木の苗を6,000本植えました。混植、密植、競り合い効果、そして自然淘汰によって世界で初めて15年で20mの本物の熱帯雨林が再生しました。この成功により、アジア人で初めての国際生態学センター長に選任されました。

経団連会長でもあったトヨタ自動車社長とお話し、その1週間後にハイブリッド自動車を作る堤工場常務と田原工場で会い、タイ・バンコクで14,500人で3万本植樹すると仰りました。きちんとしたリーダーがいる会社ではこのようにいきますが、ぼーっと立っているだけのリーダーではこうはいきません。地球の裏側のアマゾンでは熱帯林はなく、熱帯林に近い場所をやっと見つけました。老木から若木まで色々な生き物がいがみ合いながら、少し我慢して生きることが40億年の生態系の生物多様性の姿です。人間社会でも皆生きているのですから、ご家庭や職場で嫌なやつを排除しないで下さい。アマゾンでもポット苗を作り、ブラジル大使館の方などに手伝って頂いて、植樹しました。ブラジル・アマゾンではボランティアの方が子供達に命の教育として「木を切っては駄目」と教えています。1990年代から『プロジェクト宮脇』として、皆の協力で苗を植えています。木を植えている時の子供達の輝く瞳を見て下さい。両親から「勉強しろ」とうるさく言われ、塾に通っている日本のお子さんとどちらが将来発展するのでしょうか。勉強は勿論大事ですが、植樹によって命の尊さを本能で理解させることができるのです。がれきは地球資源なのに、何故焼くのでしょうか。がれきを土に混ぜ、その上に植樹すると、根ががれきを抱き込み、地震や津波で倒れません。津波で庁舎が無くなった町の総務課長だった方が、今は町長に就任し、今年4月28日に細野環境大臣や細川元総理を初め1,500名に参加して頂き、初めてがれきを使った植樹を行いました。今はまだ小さい苗ですが、10mのマウンドに30mの緑の防波堤ができれば、かなりの津波が来ても大丈夫でしょう。南三陸地方では鉄筋もコンクリートもほとんど駄目になっていましたが、タブノキの森で津波が止まっていたのです。愛知県でも豊橋市などでいのちの森づくりを行っています。こうしたノウハウを日本から世界に発信し、次に氷河期が来る9000年後まで、台風・地震・大津波・火事の際に命と心と40億年続いたあなたの遺伝子を守り、地球規模で生物多様性を維持し、温暖化を抑える本物のいのちの森を作って下さい。地域の皆様と生命の尊さ、明るさ、厳しさ、素晴らしさを実感し、千年、万年続く、地域景観と地域経済と共生する森づくりをロータリアンの皆様で発信して頂きたいです。やる気になればできます。女性は130歳まで、男性は120歳まで生きられる生物としての能力がありますが、何もしないと退化してしまいます。私もまだたったの84歳です。あと30年、114歳まで生きようと思いません。若者の皆様も未来に向かって、頑張ってください。

Q. 埋めるがれきが放射能に汚染されていた場合、木が吸収するなどの心配はありませんか？

A. 放射能について詳しくありませんが、今度海岸沿いにマウンドを作る際、危険な場合は考えなければなりません。50年程保つ袋に詰め、できるだけ高いマウンドを作り、放射能を吸収するものと共に植樹すれば良いと思います。食用ではなく、あくまでも森を作るので、危険性が無いようにできることから行っていけば良いと思います。

Q. 植樹の時に50~80cmくらいの間隔で植えていますが、大きくなった場合間引く必要があるのでは？

A. 生物社会には競争が必要です。1平米に3本くらい植えます。小さい時は密度効果で競り合った方が早く育ちます。その後は木の特性によって自然淘汰されます。枯れたものは肥やしになり、その森を育てるので、下手な管理はしません。枝を切って陽が入ると陽性の雑草がすぐに生えてしまうので、自然に任せておきます。

Q. こうした活動をする上で行政の壁はありますか？

A. 行政や官僚機構は手強いですが、相手も人間ですので、喧嘩することなく、何度も話し、正しく理解して貰います。相手は机上で考えるので、限られた事例で行われたことはなかなか現場には適用されません。現場に来ていただき、一緒に木を植え、問題があれば対応すればいいのです。莫大なお金を使ってがれきを焼いては無駄だと説得します。地域のオピニオンリーダーからも、他人事のように思っている自分自身のためになることを本気で訴えていただきたいです。まだまだではありますが、少しずつ行政との間に穴が開いてきていると感じます。

資源の少ない日本で危機をチャンスに変え、鎮守の森のノウハウと命と環境エコロジーを総合した、9,000年続くいのちの森づくりを国家プロジェクト・国民運動としてできることから行っていきましょう。個々の活動が点から線に、線から面になっていくと思います。



▲ 宮脇さんを囲んで

例会のご案内

■今週の行事 6月14日(木) なごやか例会

■次週の行事 6月21日(木) 第5回クラブフォーラム

内 容：委員会報告と次年度行事予定

■次々週行事 6月28日(木) 下期納会

場 所：か茂免

時 間：18:00~20:00